

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2397200078		
法人名	社会福祉法人貞徳会		
事業所名	ガーデンホーム赤目(西ユニット)		
所在地	愛知県愛西市赤目町80		
自己評価作成日	令和3年1月31日	評価結果市町村受理日	令和3年4月14日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

東西ユニットが平面にある為、入居者やスタッフも自由に行き来することができ、広い空間の中で生活できる。各居室にトイレ・洗面所があり、プライバシーや衛生面等の配慮が保たれている。季節に合った掲示物をレク活動の中で入居者様に作成して頂いたり、旬の野菜等でおやつ作りを行ったり、生活の中での季節感を大切にしている。入居者様のお誕生日には、好みに応じて手作りおはぎや手作りケーキを作り、ユニットの皆さんとお祝している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2397200078-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2397200078-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和3年3月8日		

ホームが立地している場所については、周辺が田園地帯でもあることで、感染症問題が続いている状況の中であっても、ホームでは利用者が日常的にホームの外に出て、近隣を散歩したり、ホームの広い敷地内を散歩する等の機会がつけられており、利用者がホームの中での生活のみにならないような取り組みが行われている。利用者の外出については、協力医療機関が市外にあることで、受診に出かける際には、利用者に季節を感じてもらえるような配慮が行われており、利用者にとっては外出の機会にもつながっている。地域の方との交流についても、感染症問題があることで困難になっているが、昨年度までは、母体でもある関連の特養の場所で地域の方に向けたサロンが行われており、ホームからも利用者と参加する機会がつけられており、利用者との交流の機会にもつながっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念、事業所理念のもとケアの方法を話し合い、共有しながら実践につなげている。	運営法人の基本理念でもある「ノーマライゼーション」を職員の支援の基本に考えながら、ユニットによりiPadにも記載する等、理念の共有につなげている。また、ホーム独自の目標をつくる取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今年はコロナ禍により、事業所と地域とのつながりを持つことが殆どできなかつたが、時々地域の方から野菜の差し入れがあった。	地域の方との交流については、関連事業所を通じて行われているが、ホームでも地域の方から野菜等をいただく等、独自の交流も行われている。今年度は、感染症問題があることで、関連事業所で行われているサロン等は中止になっている。	関連事業所で行われているサロンについても中断している状況が続いているため、今後の感染症の状況をみながら、地域の方との交流が継続されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業者側から、ケアの拠点として地域の方々へ進んで発信することは殆どないが、相談があれば、利用可能な介護保険サービス、事業所の紹介などの対応を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	通常の運営推進会議は実施できなかったが、会議参加者には、取り組み内容やサービス状況について、書面を送付し、評価を頂くように努めている。	今年度の会議については、書面により実施している。会議を開催する際には、地域の方や家族の参加が得られており、交流の機会にもつながっている。また、毎回の会議に市職員の出席も得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村へ訪問する機会に、相談事項があれば直接担当者に意見を求めている。日頃から良好な関係が築けるような関わりに努めている。	市内の介護事業所が集まる連絡会が開催される際には、ホームからも参加する機会をつくり、交代で役員を担うこともあり、市担当部署との情報交換等につなげている。また、関連事業所を通じた情報交換等も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関やユニットの入り口等は施錠しておらず、自由に出入りできるようにしている。	身体拘束を行わない方針で支援は運営法人全体で行われており、法人全体で身体拘束撲滅委員会の取り組みが行われている。ホームでも施錠を行わない支援に取り組みながら、利用者と外に出る等の機会をつくっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的にアンケートを実施し、内部研修を行っている。虐待につながる言動に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、単身での入居事案がないため、成年後見制度を活用していない。入居者様の権利を守るために、学び、理解する必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が窓口となり、利用料や契約内容について、家族が納得できるよう説明を行っている。疑問や不安があれば、その都度解消し、理解を得るように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者、家族の意見や要望はできるだけ取り入れ運営に反映できるように努めている。	現状、家族との交流は困難になっているが、例年は、家族会が行われており、交流の機会がつけられている。家族からの要望等については、運営法人の第三者委員を明示する取り組みも行われている。また、毎月の利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議や個人面談で職員の意見や要望を聞く機会を設け反映できるように努めている。	毎月のユニット毎の職員会議や日常の情報交換等を通じて、管理者が把握した職員からの意見等は、運営法人にも報告しながら、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、職員面談の機会もつけられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人内で評価制度を設け、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	今年度は、事業所内・外の研修は殆ど実施されていないが、webや書面での研修を行っている。研修内容は、全職員が回覧し、情報が共有されるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	3,4か月に1度、近隣の同業者が集まり、運営状況の報告など、意見交換を図る場が設けられている。親睦を深めながら、様々な視点から意見や助言が得られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス導入前にアセスメントを行い要望などあればケアプランに反映させ対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の面接で管理者と計画作成者がニーズを聞き取りながら信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様やご家族が必要な支援、要望を把握し、サービスに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活の中で入居者のできることを、職員と一緒にすることで共に支え合う関係づくりに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族からの協力も得て日常の介護を行っている。月に1度ご家族にはお便りを送り、入居者様の状況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今年度は、知人や友人が自由に施設へ出入りすることは困難であったが、電話や手紙などを通じて馴染みの関係を継続できるように支援していきたい。	利用者の中には、関連事業所に利用者の近い方が利用している際には、交流ができるような機会がつけられている。現状、外部の方との交流が困難であるが、例年は、家族の協力もえながら行きつけの場所に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の性格や相性を理解し、孤立せず関わり合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	住み替えが必要になった場合、転居のダメージを最小限にするための周辺情報、具体的なケア内容等、転居先に伝え、継続的にフォローできるように支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向を伺い、24Hシートやケアプランに落とし込み支援できるように努めている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行い、申し送りノートについても利用者に合わせて用意する等、一人ひとりの意向等に合わせた支援につなげている。また、毎月のカンファレンスを行い、意向等の検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日々の入居者との会話やご家族からの情報を得て把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ipadを活用し、日々の生活の変化を記録に残し、職員間で共有することで把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	3か月に1度モニタリングを行い、6ヶ月に1度介護計画を作成している。ご本人の思いを大切にそれぞれの意見や支援内容をプランに反映できるよう努めている。	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、利用者の状態等に合わせた対応が行われている。また、日常的にも、iPadを活用しながら介護計画の内容に合わせた記録を残す取り組みが行われており、3か月のモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を個別にケア記録に残し、情報共有できるように努めている。又、記録をもとにユニット会議などで話し合いが行われている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	身体状況の変化など、その人に応じたサービスが提供できるよう考慮している。同法人内の様々な介護保険サービスの中から、その人に合ったサービスが提供できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	今年度は社会資源を活用して地域住民と関わる場を持つことができなかった。消防との連携を図ることで、災害時、迅速に入居者様の安全を確保することができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	今までのかかりつけ医への通院を継続するのかわかりつけ医へ受診するか家族の意向確認を行っている。臨時の通院に関しては、家族へ連絡し、受診結果を報告している。	協力医との訪問診療が行われている他にも、ホーム職員による受診支援も行われており、利用者の健康状態に合わせた支援が行われている。また、関連事業所の看護師との連携も行われており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師は常駐していないが、状態に変化があれば、同法人の看護師と連携を図り、適切な処置、受診の指示を仰ぐことができる。迅速に医療連携を図り対応することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリーを提供し、本人、家族が安心して治療を受けられるよう努めている。退院後の生活についても、本人がスムーズに移行できるよう医療機関、家族と話し合いの場を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期について最期は住み慣れた場所で迎えたいと望む家族が多いため、可能な限り事業所内で支援している。困難な場合は早期に家族と話し合いを行い、今後の意向確認を行っている。	身体状態の重い方もホームでの生活ができるように、可能な支援が行われている。現状は、関連事業所に特養が開設されていることもあり、利用者の段階に合わせた家族との話し合いを行いながら、次の生活場所への移行支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時、対応マニュアルがあり、職員全員がそれに沿って確実、適切な行動がとれる体制を整えている。看護師より簡単な処置の指導を受け、現場の職員は実践力を身に付けることができる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を行っている。時間、場所等様々な想定で訓練を行っている。避難経路や火災通報装置の使用方法など、介護員が把握できるよう取り組んでいる。	避難訓練については、年4回の実施で計画されており、夜間想定や通報装置の確認等が行われている。関連事業所とも連携しながら、水害を想定した訓練も行われている。また、備蓄品については、ホーム内と関連事業所に確保されている。	感染症問題があることで、現状、地域の方の他にも、関連事業所との交流も困難になっている。今後の感染症の状況をみながら、関連事業所との協力関係の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	トイレ時など他の入居者にわからないようプライバシーに配慮した声掛けをするように努めている。	職員が利用者を尊重した対応を行うように、利用者への声かけ等を意識するように、注意喚起等の機会がつけられている。また、職員の接遇にもつながる研修を実施し、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	表情やしぐさからも思いを汲み取るよう心掛けながら、出来る限り自己決定できるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせ希望に沿った過ごしやすい生活が送れるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	好みの服や季節に合った衣類を着られるようにしている。馴染みの美容院や毛染め等の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員と入居者が一緒に食事の準備や後片付けをする事で、毎日の食事が楽しみとなるよう支援している。	食事については、職員間で検討を行いながら、現状、外部業者も活用しながら提供しているが、ご飯と汁物については、ホームのキッチンで調理が行われている。利用者の希望等に合わせたおやつ作りや季節に合わせた食事の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分量を毎日記録に残し、一人ひとりの状態に応じておかずを一口大にカットしたり、好みの水分を提供したり、それぞれがバランスの摂れた食事ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、自分でできない方は介助している。入居者様の状況に応じて、歯科往診し、指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄記録をもとに、表情や行動からも汲み取りながら、一人ひとりの排泄パターンに合わせ対応している。	利用者の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報を共有する取り組みが行われている。居室にトイレが設置されており、利用者に合わせたベッド等の配置が行われている。また、関連事業所の看護師との排泄に関する医療面での連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝、牛乳とヨーグルトを提供し、水分量を増やしたり、歩行を増やしたりしながら便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	週3回実施している。本人の希望に合わせて、午前、午後で対応している。	利用者が週3回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方についても、随時の声かけを行いながら、定期的な入浴につなげている。また、利用者の身体状態に合わせた対応や季節等に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	自分のペースで休息してもらっている。就寝時間も一人ひとりに合わせて対応している。気持ちよく眠れるよう日中はできるだけ活動的に生活できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の薬箱に薬情を入れいつでも確認できるようにしている。ご本人の状況により服薬内容が変わった時等職員間で共有し、状態観察を行いながら嘱託医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの趣味や興味のあることを把握し、能力に応じた役割をみつけ、生活の張り合いになる事を日々の生活に取り入れ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	コロナ禍により外出制限を行っている。本人の希望により気分転換を兼ねてホーム周辺を散歩したり、テラスに出て活動する時間を設けている。	感染症問題があることで、利用者の外出が困難になっているが、ホームの広い敷地を活用した散歩等の支援が行われている。また、協力医療機関がホームから離れた場所にあることで、受診の際には利用者の外出機会にもつながっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様が金銭を所持することに制限はしていない。お金を持つ安心感や満足感に配慮して、本人や家族と相談しながら金銭管理の支援に取り組んでいきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があればいつでも電話できるようにしている。又、家族からの電話も取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ユニットの扉は開放し、圧迫感を感じないように配慮している。季節感を感じることができるよう花や野菜を育てたり、季節に合った飾りつけを一緒に行っている。	ホーム内は広く、天井も高く設計されていることで、利用者が日常生活の中で圧迫感を感じないような生活環境がつけられている。また、季節の良い時期には、リビングの外にあるテラスに出て過ごすことができる空間も確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ユニットの席だけではなく、ソファを設置し好きな場所で過ごせるようにしている。他のユニット間も自由に行き来できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた物を持参して頂き、ご家族の写真や愛着のあるものを飾り、安心して過ごしていただけるように心掛けている。	居室には、ベッドやタンスが設置されていることで、持ち込みが少ない方もいるが、利用者の中には畳マットを敷いたり、こたつを持ち込む等、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、トイレと洗面台も設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロア内、居室内は安全に配慮した環境作りを工夫している。各居室、扉の横に表札を掲示し、自分の居室がわかるようにしている。		